

宮之浦岳・永田岳

2013. 11/5(火)～8(金) Ooshio



屋久島は、今回二度目である。

約43年前のメモから、九州を周遊した際(1970. 3. 5～18)は、船で着き楠川コースから、小杉谷山荘泊で小高塚山まで行ったものの、装備・時間的に無理と思い、同じコースを下山した事や、山荘の親爺が「福岡工大ワンゲル部の宮之浦岳遭難死亡事故」の話をしていて事を思い出す。

○行程

- ・11/5(火) 伊丹空港(10:30)→屋久島空港(12:05)＝島内観光＝安房(16:00)(泊)
- ・11/6(水) 安房(5:00)＝淀川入口(6:10)…淀川小屋(7:05)…花之江河(9:05)…宮之浦岳(12:00)…焼野三叉路(11:40)…永田岳(13:50)…新高塚小屋(17:25)
- ・11/7(月) 新高塚小屋(6:00)…縄文杉(8:30)…ウヰルン株(10:00)…小杉谷(12:30)…荒川ダム登山口(14:10)＝平内(17:10)(泊)
- ・11/8(月) 平内(8:00)＝屋久島空港(11:50)→伊丹空港(13:10)

○11/5(火)

窓から海面の煌きが眩しい。機体は高度を下げて、「洋上のアルプス」へと近づき、回り込む様に空港に舞い降りた。バスで安房から尾之間のモッコム岳の麓で昼食後、安房から栗生間の海岸線路を巡り、ゆっくり半日島内観光を楽しむ。路端の植物(ハビ`スカス・パ`パ`ヤ`ヤシ`ガジ`ェマル`バナナ等)が南国の雰囲気を盛り上がってくれる。屋久島は、山も川も谷も多い。鯛ノ川沿いに龍神の滝、巨大な一枚岩を流れ落ちる千尋の滝、海に流れ落ちるト`ロ`キの滝を見て安房の宿に着く。

所要時間 5:30



写-1 遠景

写-2 千尋の滝

写-3 海岸線

写-4 原種のハビ`スカス

○11/6(水)

今日は行程が長く、淀川入口から新高塚小屋までトイレがないと言う事で、昨日からかなり水分を控える。昨日渡されたフリーズドライ食をザックに詰め込み、バスに乗り込む。約1時間で登山口に到着する。メンバーは11名+ガイド3名である。登山口から右の階段を上り、暫く行き淀川小屋に着いた頃には、空が明るくなってきた。淀川鉄橋を渡り、登坂から樹林帯を過ぎて、花之江河で休憩する。ここは、日本最南端の高層湿原(標高 1600m)で景観が素晴らしい!時折、霧がかかると、寒くなる。湿原を離れ、黒味岳への分岐から投石平へと向かう。稜線の笹原を進み、様々な形の巨岩や、主峰を望みながら栗生岳(巨岩)に着く。少し霧が濃くなってきた。

宮之浦岳(標高 1936m)に到着した時には、霧が晴れてきた。霧の合間から永田岳が見える。宮之浦岳は表示より+1m だそうです。写真を撮り、周囲を一望後、下山する。焼野三叉路から永田岳へと急ぐ。途中、宮之浦岳の雄姿を見ながら永田岳(標高 1886m)に到着。5時に新高塚小屋に着かなければならいので、ゆっくり休む間もなく、下山する。巨岩のワジエの間を通り、焼野三叉路を抜け、薄暗い中を漸く新高塚小屋に到着する。

明日の準備し、フリーズドライ食を食べて、早々に寝袋に入って眠る。

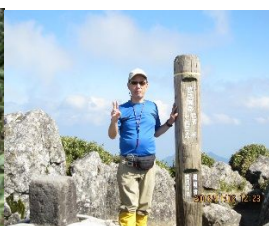
所要時間 12:00



写-5 小花之江河



写-6 屋久シカ



写-7 宮之浦岳山頂



写-8 宮之浦岳



←写-9 永田岳

○11/7(木)

外は未だ激しく雨が降っている。何となく気が重い。寝袋を片付け、フリーズ食を胃の中に駆け込み雨具を装着し、出発する。高塚小屋へ到着する。縄文杉はもう直ぐだ。いよいよ、屋久杉(屋久杉とは1000年以上のもの)の森著名木が現われる。縄文杉は最大の屋久杉で樹齢7200年とか。確かに風格を感じる。雨も小止みとなり、大株歩道を進む。雨も何時しか止んでいた。ウィルソ株(江戸時代に伐採された)に到着し、休憩する。有名なスポットなので、多くの人で混雑している。切株の内側から見て、切口がハートになる様に写真を撮る。(これがナウらしい??)

大株歩道入口からさらに長いトロッコ歩きを続ける。三代杉・小杉谷山荘跡・楠川分岐を過ぎ、小杉谷の東屋で昼食とする。(近くに、小杉谷学校跡がある) 橋を渡り、対岸の軌道を歩き続け、漸く荒川登山口に辿り着く。登山口の手前で、ダムへ資材を運ぶトロッコと遭遇する。バスに乗込み安房まで下る途中で、多くの猿・鹿と出逢う。(屋久島では人2万・猿2万・鹿2万とも謂れている)

平内海中温泉に到着し、一息入れる。ここは、混浴で有名な海中温泉で、夕方も良いが、満天の星を仰ぎ見至福のひと時をあじわえる早朝前も良い。

所要時間 8:00



写-10 縄文杉

写-11 ウィルソウ株(ハート)

写-12 トロッコ軌道

写-13 平内海中温泉

写-14 モッチョム岳

○11/8(金)

荷物の整理をして宿を立つ。終始目にしたモッチョム岳とも別れ、安房近くの屋久杉自然館で、島の歴史・暮らし・屋久杉の多くを見学する。土産店で時間を潰し、昼前には機上の人となる。一路あっという間に大阪へ、到着する。4日間は早かった。

☆今回は、天候にも比較的恵まれ、2座登頂、巨樹著名木、温泉、滝、動植物等々色々楽しみました。只、小杉谷山荘跡や小杉谷学校跡を見た時は、前に来た時には有ったのにと、涙腺が熱くなりました。